



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

標なき旅

三学年主任 大山 毅

年末に、学生時代に所属していた天文同好会のメンバーと十数年ぶりに会う機会があり、流石、惑星、星座、写真、理論などいくつかの専門分野に分かれていたが、どの班の活動にも参加することができた。自分の所属していた理論班では天体や宇宙について研究し、テーマを決めて議論していた。はじめのうちは専門の知識はほとんどなく、疑問点ばかりが多かった。議論は出せないことが多かった。宇宙のことを議論するには、天文学だけではだめで、力学はもちろんだ、相対性理論、量子論などを学ぶ必要があることがわかってきた。これらは自分の属している化学科では扱われないため、簡単な解説本を買って集めてみんなで議論した。

そんな中、ハイゼンベルクの不確定性原理について学んでいくと、予測できない未来があることがわかってきた。一般的に原因があって結果があるという因果律が成り立つ限り、未来は決まっているはずである。たとえば、ボールを投げると飛んでいくが、角度や加速度を緻密に計算して投げると、正確に目的の場所に飛ばすことができる。また、動いている車から投げた場合でも、その速度や空気の抵抗を考慮して投げると目的の位置に必ず到達する。すべての分子や原子レベルで初期条件さえ決めればどのような未来になるのか予測できる。物質以外の意識のある生物の行動まで予測はできないのではと思われるが、意識や感情も脳細胞に入力する電気信号であり、周囲の環境を把握し分子レベルで計算すればどのような行動するか予測できる。

3月の行事予定

3月	
1 火	第67回卒業式
2 水	
3 木	1年救命救急法短期講習
4 金	
5 ㊤	1年スタディサポート
6 ㊦	
7 月	学年朝会 入学学力検査会場設営 7限カット40分6限授業
8 火	入学学力検査 国公立大学中期日程試験(3/8~)
9 水	入学学力検査
10 木	
11 金	
12 ㊤	悠学講座⑩ 国公立大学後期日程試験(3/12~)
13 ㊦	
14 月	
15 火	学校安全の日
16 水	合格者発表
17 木	合格者集合
18 金	1,4,6,7限の4限授業
19 ㊤	
20 ㊦	春分の日
21 ㊧	振替休日
22 火	40分×7限
23 水	合格体験を聞く会(7限)
24 木	
25 金	終業式 大掃除
26 ㊤	
27 ㊦	
28 月	
29 火	離任式
30 水	
31 木	

「鶴丸の1日目にある「天からの封書を開けよ」という言葉の解説は意味深い。入学してこの言葉に出会ったとき、卒業するときとは受け止め方も異なっていることだろう。未来が決まっていなくても、それを先に知ることができない。だからこそ夢を持ち続け、それを目標に向かって突き進む中で、微調整したり速回りをしたりすることが大切になってくる。そして、その苦労や経験が「ゆらぎ」を起こし、新しい扉をあ

Unschärferelation

$$\Delta x \cdot \Delta p \geq \frac{\hbar}{2}$$

$$\hbar = \frac{h}{2\pi}$$

$$h = 6.626 \times 10^{-34} Js$$

質を決めるのに重要な役割を果たしているが、その動きを正確に予測できないということがある。ハイゼンベルクの不確定性原理はアインシュタインの一般相対性理論と同様、宇宙の謎を解く重要な理論である。宇宙は何もない「無」から突如ビッグバンによって誕生したといわれているが、その根本的な原因が不確定性原理で言う「ゆらぎ」である。不確定性原理は「無」の世界で「ゆらぎ」があることを保証する原理といってもよい。では、「ゆらぎ」が始まる前は何かあったのかと考えるとわからなくなってしまう。理論的には「ゆらぎ」の始まる前の世界は存在しない。このあたりは自然科学と哲学の区別がつかない領域である。宇宙はなぜ存在するのか、物質はなぜ存在するのか、人はなぜ存在するのかなど難しい命題である。もしかしたら、宇宙は自分自身のなぞを解き明かして自らうたため、物質をつくり、人の知性を生み出したのかもしれない。



- 緊張しながらも堂々と
校内弁論大会開催
- 二月八日、一・二年生合同の校内弁論大会が開催された。クラス審査、学年審査を勝ち抜いた六名の弁士たちが、各自の生活や経験に即し、意見を主張した。発表者と演題は、発表順に、
- 二八 R 肥 後 有 咲さん
「自分を愛せ」
 - 一六 R 濱 砂 しえるさん
「星の光」
 - 二二 R 上 野 さくらさん
「明るい未来へ」
 - 一四 R 磯 崎 雅 子さん
「食を知る」
 - 二四 R 前 床 胡 桃さん
「あなたの目は誰のもの？」
 - 一八 R 益 満 朋 佳さん
「誰も知らないから」

であった。それぞれの発表者は、自分の考えを論理的にまとめ、相手に伝わりやすいように話し方、身振り、声の調子、スピードなど多く点に工夫を凝らしていた。相手

一月二十四日から二十五日にかけて、西日本を中心に記録的な大雪となり、鹿児島にも大雪が降った。二十五日は月曜日ということもあり、公共交通機関も大きな混乱をみせた。大半の生徒も登校不可能となり、学校も臨時休校の措置をとった。



に何かを伝えることは勇気がいることでもあり、覚悟が必要である。全ての弁士がその覚悟を持って発表してくれた。それぞれの弁士の姿をみて、触発された生徒も多いことだろう。様々なものの見方、考え方を学び、社会的視野を広げる意義深い時間となった。結果は、

最優秀賞 前床 胡 桃さん
優秀賞 磯 崎 雅 子さん
上 野 さくらさん

最優秀賞の前床胡桃さんは、周囲に迎合しすぎることなく自己の視点を確立することが重要であると述べ、そのためには自己を客観的に見つめなおす視点を持つことが肝要だと訴えた。また、優秀賞の磯崎雅子さんは、食品生産の実態と問題を述べ、食の安全に対する意識の高揚を訴えた。また、上野さくらさんは、命の大切さを述べ、何気なく過ぎゆくように感じる日々は当たり前ではない、一日一日を大切に生きようと訴えた。今回、惜しくも賞を逃した他の生徒の弁論も立派なものであり、聴衆の生徒それぞれの心に届いていた。



卒業式の会場設営をする在校生・職員の様子

いよいよ旅立ち

明日、六十七回卒業式

明日、いよいよ学び舎を後にする三年生。多くの生徒が、国公立大学前期日程を終え、束の間の安堵感を感じつつも、中期日程・後期日程に向けて集中力を維持しなければならぬ旅立ちである。

明日は、校歌「はるばると」を高校生として歌う最後の機会である。仲間とともに高らかに歌い上げ最高の卒業式にしてほしい。在校生も卒業式を素晴らしいものにすべく、学年末考査期間中の合間を縫って、会場の設営をはじめとする様々な準備を、心を込めて行っていた。



雪かき前のシンデレラ階段